



安全データシート (SDS)

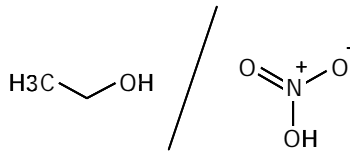
1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
 東京都中央区日本橋本町4-3-8
 担当
 TEL(03)3270-2701
 FAX(03)3270-2720
 緊急連絡 同上
 改訂日 2023/12/19
 SDS整理番号 14180950

製品等のコード : 1418-0950
 製品等の名称 : ナイトル溶液
 推奨用途 : 試薬 (腐食用、エッチング用など)
 使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2. 危険有害性の要約



GHS分類

物理化学的危険性
 引火性液体 : 区分2
 自然発火性液体 : 区分に該当しない

健康に対する有害性
 急性毒性 (吸入: ミスト) : 区分4
 皮膚腐食性/刺激性 : 区分1
 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分1
 生殖細胞変異原性 : 区分1A
 生殖毒性 : 区分1A
 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分1 (呼吸器系)、
 区分3 (気道刺激性、麻醉性)
 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 区分1 (肝臓、呼吸器系、歯)、
 区分2 (神経系)

注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

引火性の高い液体及び蒸気
 吸入すると有害 (ミスト)
 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
 重篤な眼への刺激
 発がんのおそれ
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
 呼吸器系の障害
 呼吸器への刺激のおそれ
 眠気又はめまいのおそれ
 長期又は反復ばく露による肝臓、呼吸器系、歯の障害
 長期又は反復ばく露による神経系の障害のおそれ

注意書き

【安全対策】
 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
 容器を密閉しておくこと。
 容器を接地すること、アースをとること。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器などを使用すること。
 火花を発生させない工具を使用すること。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 ミスト、蒸気などを吸入しないこと。
 取扱い後は、よく手を洗うこと。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面、呼吸用保護具を着用すること。

【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせない。
 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと、取り除くこと。
 皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。直ちに医師に連絡すること。
 眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
 気分が悪い時は医師に連絡すること。
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

直射日光を避け、容器を密閉し換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

| | | | |
|--------------|--------------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|
| 化学物質・混合物の区別 | 混合物 (99.5%エタノール/60%硝酸 = 100/1 (v/v)) | | |
| | 比重0.789 | 比重1.38 | |
| 化学名、製品名 | ナイトル溶液 (Nital solution) | | |
| 成分及び含有量 | エタノール | 約97.8w/w% | |
| | 硝酸 | 約 1.0w/w% | |
| | 水 | 約 1.2w/w% | |
| 化学式、構造式 | CH ₃ CH ₂ OH、 | C ₂ H ₆ O | HN ₃ H ₂ O |
| | 、の構造式は上図参照(1ページ目)。 | | |
| 分子量 | 46.07 | 63.01 | 18.02 |
| 官報公示整理番号 化審法 | (2)-202 | (1)-394 | 既存化学物質 |
| CAS No. | 64-17-5 | 7697-37-2 | 7732-18-5 |
| EC No. | 200-578-6 | 231-714-2 | 231-791-2 |
| 危険有害性成分 | エタノール、硝酸 | | |

4. 応急措置

- 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
気分が悪い時は、医師の治療を受ける。
- 皮膚に付着した場合：直ちに医師に連絡する。
直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。
皮膚を速やかに多量の水と石鹼で洗う。
洗浄開始が遅れたり、洗浄不十分の場合は、皮膚障害のおそれがある。
皮膚刺激などが生じた時は医師の手当を受ける。
汚染された作業衣は作業場から出さない。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
- 目に入った場合：直ちに医師に連絡する。
直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。
まぶたを親指と人さし指で掂げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。
次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
その後も洗浄を続ける。
眼の洗浄が遅れたり、不十分の場合は、眼の障害のおそれがある。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
眼刺激が消失しても、遅れて障害が現れることがあるので、必ず医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合：直ちに口をすすぎ、うがいをする。無理に吐かせてはいけない。
吐かせると再びのどや食道を通り二重に刺激・損傷を受けることになる。
直に水で薄めた牛乳や卵を飲ませて毒性を希釈する。
牛乳、卵がない時は、コップ数杯の水を飲ませ、体内で毒性を薄める。
意識がない時は、何も与えない。もし、嘔吐が自然に生じた時は、気管

への吸入が起きないように、頭を尻より下に身体を傾斜させ、肺への還流を防ぐ。嘔吐後、意識が戻れば、水を飲ませる。体の保温に努め、速やかに医師の診察を受ける。
 予想される急性症状及び遅発性症状： 眼の発赤、痛み、灼熱感、皮膚の乾燥、吸入による咳、頭痛、疲労感、し眠及び、飲み込みによる灼熱感、頭痛、錯乱、めまい、意識喪失など
 応急措置をする者の保護： 火気に注意する。
 有機溶剤用の保護マスクがあればそれを着用する。

5. 火災時の措置

適切な消火剤： 本製品は可燃性、引火性であり、非常に燃焼しやすい。粉末、二酸化炭素、泡（耐アルコール泡）、水噴霧
 大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
 使ってはならない消火剤： 棒状放水（本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがある。）
 特有の危険有害性： 非常に燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。
 加熱により容器が爆発するおそれがある。
 特有の消火方法： 火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
 散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を利用すること。
 引火点が極めて低い： 散水以外の消火剤で消火の効果がない大きな火災の場合には散水する。
 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
 消火を行う者の保護： 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置： 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
 風上から作業し、ミスト、蒸気などを吸入しない。
 蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。
 環境に対する注意事項： 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
 回収、中和： 河川、下水道、土壤に排出されないように注意する。
 乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて密閉できる空容器に回収する。
 大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。
 封じ込め及び浄化の方法・機材： 危険でなければ漏れを止める。
 漏洩エリア内で稼働させる設備・機器類は接地する。
 蒸気抑制泡は蒸気濃度を低下させるために用いる。
 二次災害の防止策： 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
 周辺の発火源を速やかに取除く。
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い
 技術的対策： 裸火禁止、火花禁止、禁煙。強力な酸化剤との接触禁止。
 引火点以上で使用する場合は、工程の密閉化および防爆型換気装置を使用する。
 ミスト、蒸気などの発生を防止する。
 指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行なう。
 指定数量以上の危険物を貯蔵し、取り扱う場合は消防法に基づく許可が必要で、危険物貯蔵所に保管する。
 指定数量の1/5以上、1未満（少量危険物）の場合も、少量危険物貯蔵所に保管し、法の規制を受け、最寄の消防署に届出を行う必要がある。
 指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取り扱いについては届出の必要はない。
 炎、火花または高温体との接触を避ける。
 静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。
 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
 局所排気・全体換気
 安全取扱い注意事項： 防爆型の換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。
 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの
 取扱いをしてはならない。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
 取扱い後はよく手を洗う。
 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しない。
 眼に入れない。
 接触、吸入又は飲み込まない。
 炎、火花または高温体との接触を避ける。

接触回避
 保管
 技術的対策

保管条件

混触危険物質
 容器包装材料

： 保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。
 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の
 軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。
 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な
 傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。
 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
 直射日光や高温を避けて保管する。
 容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管する。
 必要に応じ施錠して保管する。
 貯蔵する所には、「火気厳禁」の表示を行う。
 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
 強酸化剤、次亜塩素酸カルシウム、酸化銀、アルカリ性物質
 ガラスなど

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

許容濃度（ばく露限界値、
 日本産衛学会

ACGIH

設備対策

保護具

呼吸器の保護具
 手の保護具
 眼の保護具

皮膚及び身体の保護具

衛生対策

： 設定されていない（エタノール 硝酸共に）
 生物学的ばく露指標）：
 設定されていない（エタノール）
 2ppm 5.2mg/m3（硝酸）
 2ppm（硝酸）
 TLV-TWA 1000ppm（エタノール）
 TLV-STEL
 ： 防爆の電気・照明機器を使用する。
 作業場には防ばく型の換気装置を設置し局所排気又は全体換気を行なう。
 静電気放電に対する予防措置を講ずる。
 この物質を貯蔵ないし取扱つ作業場には洗眼器と安全シャワーを設置
 する。
 呼吸器保護具（有機ガス用防毒マスクなど）を着用する。
 保護手袋（ネオプレン製など）を着用する。
 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用
 する。
 長袖作業衣を着用する。
 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
 取扱い後はよく手を洗う。
 汚染された作業衣は作業場から出さない。
 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

性状

色

臭い

pH

融点

凝固点

沸点

引火点

可燃性

爆発範囲

蒸気圧

相対ガス密度（空気 = 1）

密度又は相対密度

比重

溶解度

オクタノール/水分係数

発火点

： 液体
 無色澄明
 ワインの香り（エタノール臭）
 データなし（水溶液は酸性）
 約-114.1（融点：エタノールに近似）
 データなし
 約78.5（沸点：エタノールに近似）
 約13（密閉式：エタノールに近似）
 引火性
 下限 約3.3vol% 上限 約19vol%（エタノールに近似）
 5731Pa(20)（エタノール）
 1.6（エタノール）
 データなし
 0.79 (20/4)、 1.38 (60%硝酸)
 水と任意に混合
 log Kow = -0.31（エタノール） 0.21（硝酸、推定値）
 422.78（エタノールに近似）

分解温度 : データなし
 粘度 : データなし
 動粘度 : データなし
 粒子特性 : データなし

GHS分類

引火性液体 : 引火点約13、沸点約78.5に基づき、区分2とした。
 引火性の高い液体及び蒸気(区分2)
 自然発火性液体 : 発火点は約422であり、常温の空気と接触しても自然発火しないことから、区分に該当しないとされた。

【参考 : エタノール〔CAS No.64-17-5〕のデータ】

物理状態 : 透明の揮発性液体。燃えるようなヒリヒリする味
 性状 : 無色
 色 : 無色
 臭い : 特異臭(ワインの香り)
 pH : データなし
 融点 : -114.1
 凝固点 : < -130
 沸点 : 78.5
 引火点 : 13 (密閉式)
 可燃性 : 引火性
 爆発範囲 : 下限 3.3vol% 上限 19vol%
 蒸気圧 : 5.8 kPa (20)
 蒸気密度(空気 = 1) : 1.6
 相対ガス密度(空気 = 1) : 1.59
 20 での蒸気/空気混合 : 1.03
 気体の相対密度(空気 = 1) : 1.03
 密度又は相対密度 : 約0.79 g/cm3 (20)
 比重 : 0.789 (20/4)
 溶解度 : 水と任意の割合で溶解する(混和する)。
 ジエチルエーテルと任意の割合で溶解する(混和する)。
 オクタノール/水分配係数 : log Pow = -0.31
 発火点 : 422.78
 分解温度 : データなし
 粘度 : 1.17 mPa・s (= 1.17 cP) (20)
 動粘度 : 1.48 mm2/s (20)
 粒子特性 : データなし

【参考 : 硝酸〔CAS No.7697-37-2〕のデータ】

物理状態 : 透明液体。吸湿性あり
 性状 : 無色
 色 : 無色
 臭い : 刺激臭
 pH : 強酸性
 融点 : -42
 凝固点 : データなし
 沸点 : 122
 引火点 : データなし
 可燃性 : 不燃性
 爆発範囲 : データなし
 蒸気圧 : 11.87hPa (25)
 蒸気密度(空気 = 1) : 2.2
 比重(密度) : 1.42 (70%)、1.40 (65%)、1.38 (60%)、1.51 (98%)
 溶解度 : 約90g/L (25)(水)
 データなし(有機溶媒)
 オクタノール/水分配係数 : log Pow = 0.21 (EST)(推定値)
 発火点 : データなし
 分解温度 : データなし
 粘度 : データなし
 動粘度 : データなし
 粒子特性 : データなし

10. 安定性及び反応性

安定性 : 通常の取扱条件において安定である。
 危険有害反応可能性 : 空気中で爆発性過酸化物を生成する事がある。
 次亜塩素酸カルシウム、酸化銀、アンモニアと徐々に反応し、火災や爆発

- の危険をもたらす。
 硝酸（多量）、硝酸銀、硫酸第二水銀、過塩素酸マグネシウムなどの酸化剤と激しく反応し、火災と爆発の危険をもたらす。
 一般金属を腐食する（硝酸含有のため）。
 ある種のプラスチック、ゴム、被膜剤を侵す。
- 避けるべき条件 : 高温、日光、裸火、静電気、火源
 混触危険物質 : 金属、強酸化剤、次亜塩素酸カルシウム、酸化銀、アンモニア、塩基
 危険有害な分解生成物 : 窒素酸化物、一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報

【本製品のデータがないため、97.8w/w%エタノール、1.0w/w%硝酸、1.2w/w%水の混合物として分類】

- 急性毒性 : 経口 分類できない。
 経皮 分類できない。
 吸入（蒸気） 分類できない。
 吸入（ミスト） 区分4とした。
 吸入すると有害(ミスト) (区分4)
- 皮膚腐食性/刺激性 : 区分1とした。
 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷 (区分1)
- 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分1とした。
 重篤な眼への刺激 (区分1)
- 呼吸器感受性 : 分類できない。
 皮膚感受性 : 分類できない。
 生殖細胞変異原性 : 区分1 Aとした。
 遺伝性疾患のおそれ (区分1A)
- 発がん性 : 区分1 Aとした。
 発がんのおそれ (区分1A)
- 生殖毒性 : 区分1 Aとした。
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ (区分1A)
- 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分1 (呼吸器系)、区分3 (気道刺激性、麻醉性)とした。
 呼吸器系の障害
 呼吸器への刺激のおそれ (区分3)
 眠気又はめまいのおそれ (区分3)
- 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 区分1 (肝臓、呼吸器系、歯)、区分2 (神経系)と分類した。
 長期又は反復ばく露による肝臓、呼吸器系、歯の障害 (区分1)
 長期又は反復ばく露による神経系の障害のおそれ (区分2)
- 誤えん有害性 : 分類できない。

【参考： エタノール [CAS No.64-17-5] のデータ】

- 急性毒性 : 経口 ラット LD50 = 6200-15000mg/kg (DFGOT Vol.12 (1999))
 区分に該当しない。
 経皮 ウサギ LDLo = 20,000 mg/kg (SIDS(2009))
 区分に該当しない。
 吸入（蒸気） ラット LC50 = 63,000ppmV/4h
 区分に該当しない。
 吸入（ミスト） 分類できない。
- 皮膚腐食性/刺激性 : ウサギに4時間ばく露した試験 (OECD TG 404) において、適用1および24時間後の紅斑の平均スコアが1.0、その他の時点では紅斑および浮腫の平均スコアは全て0.0であり、刺激性なし (not irritating) の評価 (SIDS(2009))に基づき、区分に該当しないとした。
- 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : ウサギを用いたDraize試験 (OECD TG405) において中等度の刺激性 (moderate irritating) と評価され (SIDS(2009)、DFGOT Vol.12 (1999))、適用後1～3日目に角膜混濁、虹彩炎、結膜発赤、結膜浮腫が認められ、MMAS (Modified Maximum Average Score : A01に相当) が24.0 [ECETOCTR48 (1998)]、かつ7日以内に症状がほぼ回復している (ECETOC TR No.48(2)(1998)) ことから、区分2 Bとした。
 眼刺激 (区分2B)
- 呼吸器感受性 : 分類できない。
 なお、アルコールによる気管支喘息症状の誘発は血中アルデヒド濃度の増加と関係があると考えられており、一方、軽度の喘息患者2人がエタノールの吸入誘発試験で重度の気管支収縮を起こしたことが報告されている (DFGOT (1996)) が、その反応がアレルギー由来であることを示すものではないとも述べられている (DFGOT (1996))。
- 皮膚感受性 : 分類できない。
 ヒトでは、アルコールに対するアレルギー反応による接触皮膚炎等の症例報告がある (DFGOT (1996)) との記述があるが、「ヒトでは他の一級

- または二級アルコールとの交叉反応性が見られる場合があること、動物試験で有意の皮膚感作性は見られないことにより、「エタノールに皮膚感作性ありとする十分なデータがない」(ACGIH(2001)、DFGOT(1996)、IUCRID(2000))の記述に基づきデータ不足のため分類できないとした。
- 生殖細胞変異原性 : 区分に該当しない。
 in vivo、in vitroの陰性結果あるいは陰性評価がされており、区分に該当しないとした。
 すなわち、マウスおよびラットを用いた経口投与(マウスの場合はさらに腹腔内投与)による優性致死試験において陽性結果(SIDS(2005)、IARC(2010)、DFGOT vol.12(1999)、PATTY(6th, 2012))があるものの、試験条件の不十分性や試験結果の誤りなどが認められ信頼性は低い又は信頼性なしと評価している(SIDS(2005)、DFGOT vol.12(1999))。また、ラット、マウスの骨髄小核試験で陰性、ラット骨髄及び末梢血リンパ球の染色体異常試験で陰性(SIDS(2005)、PATTY(6th, 2012)、IARC(2010)、DFGOT vol.12(1999))、チャイニーズハムスターの骨髄染色体異常試験で陰性(SIDS(2005))である。また、マウス精子細胞の小核試験、精母細胞の染色体異常試験、ラット精原細胞の染色体異常試験、チャイニーズハムスター精原細胞の染色体異常試験(異数性)で陰性である(IARC(2010)、DFGOT vol.12(1999))。
 なお、陽性の報告として、ラット、マウスの姉妹染色分体交換試験がある(DFGOT vol.12(1999)、PATTY(6th, 2012))が、SIDS(2005)などでは評価されていない。In vitro変異原性試験として、エームス試験、哺乳類培養細胞を用いるマウスリンフォーマ試験及び小核試験はすべて陰性と評価されており(PATTY(6th, 2012)、IARC(2010)、DFGOT vol.12(1999)、SIDS(2005)、NTP DB(Access on June 2013))、in vitro染色体異常試験でもCHO細胞を用いた試験1件の陽性結果を除き他はすべて陰性であった(SIDS(2005)、PATTY(6th, 2012)、IARC(2010))。なお、この染色体異常の陽性結果は著しく高い用量で生じており、高浸透圧のような非特異的影響に起因した染色体傷害の可能性があると記載(SIDS(2005))されている。
- 発がん性 : エタノールはACGIHでA3に分類されている(ACGIH(7th, 2012))。また、IARC(2010)では、アルコール飲料の発がん性について多くの疫学データから十分な証拠があることなどから、アルコール飲料に含まれるエタノールの摂取により、エタノール及び主代謝物であるアセトアルデヒドが食道などに悪性腫瘍を誘発することが明らかにされているため、区分1Aとした。
- 生殖毒性 : 発がんのおそれ(区分1A)
 エタノールに関する疫学情報は多く、これまでの前向き研究あるいはケース・コントロール研究の結果から、一定量以上の飲酒が流産の発生あるいは発生のリスクを有意に増加させることが報告されている(IARC vol.44(1987))。また、妊婦の習慣的な飲酒が胎児に発育抑制、小頭症、特徴的顔貌、精神障害などを起こす胎児性アルコール症候群が複数の報告で認められる(IARC vol.44(1987)、SIDS(2009)、DFGOT Vol.12(1999))。その他に出生前のエタノール摂取による異常として、口蓋裂、手掌線の異常、心房心室中隔欠損、耳管欠損などが見られ、妊婦がエタノールを大量摂取した場合に催奇形性と胎児毒性が強く示唆されるとの記述もある(SIDS(2009))。以上の疫学報告および疫学研究の結果は、ヒトに対するエタノールの生殖毒性を示す確かな証拠と考えられるので区分1Aとした。
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ(区分1A)
- 特定標的臓器毒性(単回ばく露) : ヒトに吸入ばく露した試験で、昏迷、傾眠、軽度の麻痺が観察されている(ACGIH(2001))。また、エタノール摂取による急性の毒性影響は中枢神経系の障害であると記載され(DFGOT Vol.12(1999))、重度の中毒では筋失調、霧視、複視、昏迷、低体温、嘔気、嘔吐、痙攣など、大量摂取した場合には昏睡、反射低下、呼吸抑制、低血圧が見られ、さらに呼吸または循環器不全により、あるいは咽頭反射が欠如した場合には胃内容物吸引の結果として死に至ると記述されている(Patty(5th, 2001))。上記のヒトでの昏迷、傾眠などの症状に加え、ラット、マウスおよびモルモットに吸入ばく露した試験における麻酔、傾眠、運動失調などの症状の記載(SIDS(2009)、DFGOT Vol.12(1999))に基づき区分3(麻酔作用)とした。一方、ヒトに試験物質蒸気の吸入ばく露は低濃度でも眼と上気道に刺激性があるとの記述(ACGIH(2001))、ヒトに吸入ばく露した試験で、咳および眼と鼻腔に疼きを感じたとの報告(Patty(5th, 2001))、さらに非耐性の被験者の吸入ばく露試験では鼻刺激感が報告されている(Patty(5th, 2001))ことから区分3(気道刺激性)とした。
 呼吸器への刺激のおそれ(区分3)
 眠気又はめまいのおそれ(区分3)

特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : ヒトでアルコールの長期大量摂取はほとんど全ての器官に悪影響を及ぼすが、最も強い影響を与える標的器官は肝臓であり、障害は脂肪変性に始まり、壊死と線維化の段階を経て肝硬変に進行する (DFGOT (1996)) との記載に基づき、区分1 (肝臓) とした。
また、アルコール摂取により重度の身体的依存症となった患者は、振戦、痙攣、譫妄の禁断症状に加え、しばしば嘔気、脱力、不安、発汗を伴い、アルコールを得るための意図的行動、および反射亢進が顕著となると述べられている (HSDB、(2003)) ことから、区分2 (中枢神経系) とした。
長期又は反復ばく露による肝臓の障害 (区分1)
長期又は反復ばく露による中枢神経系の障害のおそれ (区分2)

誤えん有害性 : 分類できない。

【参考: 硝酸 [CAS No.7697-37-2] のデータ】

急性毒性 : 経口 分類できない。
経皮 分類できない。
吸入 (気体) 区分に該当しない。
吸入 (蒸気) ラット LC50(4時間) = 49 ppm
(産衛学会許容濃度の提案理由書 (1982))
吸入すると生命に危険 (蒸気) (区分1)

皮膚腐食性/刺激性 : 吸入 (ミスト) 分類できない。
本物質の液体や蒸気はヒトの皮膚に対して重度の損傷性を示す (ACGIH (7th, 2001)) との記載や、短時間のばく露であっても皮膚に対して損傷を与える (DFGOT vol. 3 (1992)) との記載がある。
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷 (区分1)

眼に対する重篤な損傷/刺激性 : 本物質は角膜に傷害を与え、回復性のない視力障害を生じさせる (DFGOT vol. 3 (1992)) との記載や、ヒトの眼に対して重度の化学火傷を起こし、眼球の縮小、眼瞼癒着、回復性のない角膜混濁から失明に至る (ACGIH (7th, 2001)) との記載がある。
重篤な眼の損傷 (区分1)

呼吸器感受性 : 分類できない。
皮膚感受性 : 分類できない。
生殖細胞変異原性 : 分類できない。
発がん性 : 分類できない。
IARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAの評価機関の報告がないため、分類できないとした。

生殖毒性 : 分類できない。

特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 本物質は、気道刺激性がある (産衛学会許容濃度の提案理由書 (1982)、SIDS (2010)、ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol. 3 (1992))。ヒトにおいては、吸入ばく露で咳、頭痛、吐き気、胸痛、呼吸困難、気管支収縮、呼吸器障害、肺水腫、経口ばく露で口腔、食道、胃の腐食壊死、肺炎が報告されている (SIDS (2010)、ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol. 3 (1992))。実験動物では、ラットの8 ppm (0.02 mg/L) の吸入ばく露で、気道の広範な炎症、鼻炎、気管支炎、肺炎 (SIDS (2010))、49 ppm (0.12 mg/L) で肺浮腫の報告 (産衛学会許容濃度の提案理由書 (1982)) がある。これらの症状は区分1に相当する範囲の用量で認められた。
以上より、本物質は呼吸器に影響を与えることから、区分1 (呼吸器) とした。
呼吸器の障害 (区分1)

特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 硝酸に職業的に吸入ばく露された32名のうち3名に歯の歯牙侵食 (対照群は293例中発症なし) がみられた (SIDS (2010)、ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol. 3 (1992)) との記述、並びに硝酸の蒸気及びミストへの反復ばく露により、慢性気管支炎を、さらに重度のばく露症例では化学性肺炎を生じるとともに、歯牙、特に犬歯及び切歯を侵食する (ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol. 3 (1992)) との記述がある。実験動物では本物質反復ばく露による試験結果はない。
以上、ヒトにおける職業ばく露例の知見に基づき、区分1 (呼吸器、歯) に分類した。
長期又は反復ばく露による呼吸器、歯の障害 (区分1)

誤えん有害性 : 分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性
水生環境有害性 短期(急性) : 分類できない。
水生環境有害性 長期(慢性) : 区分に該当しない。

残留性・分解性 : データなし
 生物蓄積性 : データなし
 土壤中の移動性 : データなし
 オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

【参考 : エタノール〔CAS No.64-17-5〕のデータ】

生態毒性
 水生環境有害性 短期(急性) : 甲殻類(オオミジンコ) EC50 = 5,463mg/L/48hr
 区分に該当しない。
 水生環境有害性 長期(慢性) : 甲殻類(ニセネコゼミジンコ) NOEC = 9.6mg/L/48hr
 区分に該当しない。
 残留性・分解性 : 良分解性。BOD分解度 = 89%
 生物蓄積性 : 低濃縮性。Log Pow = -0.31
 土壤中の移動性 : 高移動性。Koc = 0.20
 オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

【参考 : 硝酸〔CAS No.7697-37-2〕のデータ】

生態毒性
 水生環境有害性 短期(急性) : 魚類(カダヤシ) 96時間LC50 = 72 mg/L (SIDS, 2010)
 水生生物に有害(区分3)
 水生環境有害性 長期(慢性) : 区分に該当しない。
 硝酸は天然物として広く存在し、塩の毒性試験の結果からは急性毒性はpH低下が悪影響の要因であることが知られている。
 硝酸イオン濃度が高い場合には有害な作用があることが知られているが、慢性区分の1mg/Lの濃度では概ね毒性は発現しないと考えられる。
 残留性・分解性 : データなし
 生物蓄積性 : データなし
 土壤中の移動性 : データなし
 オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
 都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して廃棄物処理を委託する。
 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
 必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
 (参考)(1)燃焼法
 そのまま又は可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、またはケイソウ土、木粉(おが屑)等に吸収させて、アフターバーナー及びスクラパー付き焼却炉の火室で焼却する。
 (2)活性汚泥法
 生分解性があるので、活性汚泥処理が可能である。
 汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 132

国際規制
 海上規制情報(IMDGコード/IMOの規定に従う)
 UN No. : 2924
 Proper Shipping Name : FLAMMABLE LIQUID, CORROSIVE, N.O.S.
 Class : 3(引火性液体)
 Sub Risk : 8(腐食性物質)
 Packing Group : II

| | |
|--|---|
| Marine Pollutant | : No (非該当) |
| Limited Quantity | : 1L |
| 航空規制情報 (ICAO-TI/ IATA-DGRの規定に従う) | |
| UN No. | : 2924 |
| Proper Shipping Name | : Flammable liquid, corrosive, n.o.s. |
| Class | : 3 |
| Sub Risk | : 8 |
| Packing Group | : II |
| 国内規制 | |
| 陸上規制情報 (消防法、 道路法の規定に従う) | |
| 海上規制情報 (船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う) | |
| 国連番号 | : 2924 |
| 品名 | : その他の引火性液体 (腐食性のもの) |
| クラス | : 3 |
| 副次危険 | : 8 |
| 容器等級 | : II |
| 海洋汚染物質 | : 非該当 |
| 少量危険物許容量 | : 1L |
| 航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う) | |
| 国連番号 | : 2924 |
| 品名 | : その他の引火性液体 (腐食性のもの、他に品名が明示されているものを除く。) |
| クラス | : 3 |
| 副次危険等級 | : 8 |
| 少量輸送許容量 | : II |
| 特別の安全対策 | : 0.5L 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載する。 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。 危険物の運搬中、危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報する。 移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 |

15. 適用法令

| | |
|-----------------------|---|
| 労働安全衛生法 | : 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (政令番号 第61号「エタノールを0.1%以上含有するもの」) (政令番号 第307号「硝酸を1%以上含有するもの」) 名称等を通ずべき危険物及び有害物 (政令番号 第61号「エタノールを0.1%以上含有するもの」) (政令番号 第307号「硝酸を1%以上含有するもの」) (別表第9) |
| 消防法 | : 危険物・引火性の物 (施行令別表第1第4号) 危険物第4類引火性液体、アルコール類 水溶性 指定数量400L 危険等級 (法第2条第7項危険物別表第1) |
| 毒物及び劇物取締法 | : 非該当 |
| 化学物質排出管理促進法 (PRTR法) | : 非該当 [2023年 (R5年) 4月1日施行にも非該当] |
| 船舶安全法 | : その他の引火性液体類 (腐食性のもの) (危規則第2、3条危険物告示別表第1) |
| 航空法 | : 引火性液体 (腐食性のもの、他に品名が明示されているものを除く。) (施行規則第194条危険物告示別表第1) |
| 海洋汚染防止法 | : 有害液体物質 Y類物質「硝酸」 (施行令別表第1) |
| 水質汚濁防止法 | : 有害物質 (施行令第二条) 「硝酸化合物」 〔排水基準〕100mg/L (アンモニア性窒素×0.4、亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素の合計量) |
| 輸出貿易管理令 | : キャッチオール規制 (別表第1の16項) HSコード : 2207.20 第22類 アルコール ・輸出統計番号 (2023年4月版) : 2207.20-000 「エチルアルコール (変性させてないものでアルコール分が80%以上のものに限る。) 及び変性アルコール (アルコール分のいかに問わない。) - 変性アルコール (アルコール分のいかに問わない。) 」 |

- ・輸入統計番号（2023年4月1日版）：2207.20-100
- 「エチルアルコール（変性させてないものでアルコール分が80%以上のものに限る。）及び変性アルコール（アルコール分のいかんを問わない。）
- 変性アルコール（アルコール分のいかんを問わない。）
- 1 アルコール分が90%以上のもの」

16. その他の情報

（注）本品を本来の目的以外には使用しないで下さい。

参考文献：

| | |
|--|----------------------------|
| 化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ | 化学工業日報社 |
| 労働安全衛生法MSDS対象物質全データ | 化学工業日報社(2007) |
| 化学物質の危険・有害便覧 | 中央労働災害防止協会編 |
| 化学大辞典 | 共同出版 |
| 安衛法化学物質 | 化学工業日報社 |
| 産業中毒便覧(増補版) | 医歯薬出版 |
| 化学物質安全性データブック | オーム社 |
| 公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編) | 三共出版 |
| 化学物質の危険・有害性便覧 | 労働省安全衛生部監修 |
| Registry of Toxic Effects of Chemical Substances | NIOSH CD-ROM |
| GHS分類結果データベース | nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP |
| GHSモデルMSDS情報 | 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP |

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。